

※ 解答は、《解答欄》に書きましよう。

### ポイント

- ・ 本や文章などから情報を得て自分の考えをまとめる。
- ・ 引用の仕方について考える。

黒木さんは、インターネットで見つけた次の文章を読みました。

### 【文章1】

濃い赤と青とで彩られた、臓腑骨節の精緻な絵図を見ると、彼はそこに人体についてのすべての秘奥が、解き明かされてあるように思われた。その絵図と絵図との間に走っている、模様のようなオランダの文字は、一字も半字も読めなかったけれども、彼の心は激しい好奇と感激とに満たされずにはいなかった。

江戸時代の医者、杉田玄白は、『解体新書』の編者の一人として知られている。この医学書の基となったのが、ドイツ人医師の著書をオランダ語に訳した「ターヘル・アナトミア」である。

作家、菊池寛は、玄白が晩年に記した『蘭学事始』をそのまま題とする小説を書いた。冒頭は、その中の一節、玄白がターヘル・アナトミアと出会う場面である。

ターヘル・アナトミアを手に入れた玄白は、処刑された囚人の解剖に立ち会う機会を得る。当時、解剖のことを「腑分け」と呼んでいた。玄白は、腑分けの場にターヘル・アナトミアを持参する。そして、この本にかかっている解剖図が正確無比であることに驚嘆する。

当時の日本の医者の多くは、患者の様子を外観し、薬を処方していた。玄白も、体に触れることはあっても、体の内部についての正確な知識はもたなかった。玄白は後に、このときの気持ちを「面目もなき次第」と書き記している。

医者でありながら、今まで体の中のことを知らずにいたとは、なんとも申し訳ない――。その思いがターヘル・アナトミア翻訳の原動力となる。とは言え、ろくに辞書もない時代。オランダ語で書かれた専門書を日本語に訳すという作業は、困難をきわめた。遅々として進まない作業を物語るエピソードとして知られるのが、菊池寛が『蘭学事始』で取り上げた「フルベツヘンド」の話である。

一同は、「鼻は顔の中でフルベツヘンドしたものである」という箇所で作業に行きづまる。このとき、玄白らと訳に当たっていた前野良沢が別のオランダ語の本を持ち出す。そこに、次の二句があった。

―― 木の枝を切り取ると、その跡がフルベツヘンドとなる ――

―― 庭を掃除すると、ごみが集まりフルベツヘンドとなる ――

玄白たちは、これを頼りに朝から夕方まで考え続け、ようやくフルベツヘンドは、うず高いという意味であることを理解する。

玄白たちの苦闘は、足かけ四年に及んだ。膨大な時間を費やして編まれた『解体新書』は、現在も、日本の近代医学の原点といわれている。

黒木さんは、【文章1】に示されていた「フルベツヘンド」を訳す場面に興味をもち、菊池寛の『蘭学事始』を読みました。【二ページ】の【文章2】にその場面が描かれています。

## 【二ページ】

### 【文章2】

単語だけはわかって、前後の文句は、彼らの乏しい力では一向に解し兼ねた。一句一章を、春の長さ一日、考えあかしても、彷彿として明らかでないことがしばしばあった。四人が、一日の間考えぬいて、やっと解いたのは「眉上八目ノ上ニ生シタル毛ナリ」という一句だけだった。四人は、その①たわいもない文句に、嘲笑しながら、銘々嬉し涙が目のうちに滲んでくるのを感じずにはおられなかった。

眉から目と下つて鼻のところへ来たときに、四人は、鼻とはフルベツヘンドせしものなりという一句に、突き当たってしまった。

むろん、完全な辞書はなかった。ただ、良沢が、長崎から持ち帰った小冊に、フルベツヘンドの訳注があった。それは、「木の枝を断ちたるあと、フルベツヘンドをなし、庭を掃除すれば、その塵土集まりて、フルベツヘンドをなす」という文句だった。

四人は、その訳注を引き合わせても、容易には解し兼ねた。

「フルベツヘンド！ フルベツヘンド！」

四人は、折々その言葉を口ずさみながら、巳の刻から申の刻まで考えぬいた。四人は目を見合わせたまま、一語も交えずに考えぬいた。申の刻を過ぎた頃に、玄白が躍り上るようになり、その膝頭を叩いた。

「解せ申した。解せ申した。方々、かようでござる。木の枝を断ち申したるあと、癒え申せば高くなるでござろう。塵土集まれば、これも高くなるでござろう。されば、鼻は面中にありて、②突起するものでござれば、フルベツヘンドは、高しということござろうぞ。」と言った。

四人は、手を打って喜びあつた。玄白の目には涙が光った。

※彷彿…ぼんやりとしていること。 ※嘲笑…大声で笑うこと。 ※訳注…翻訳に際して付けた語句の説明。

※塵土…こみやちり。 ※巳の刻から申の刻まで…午前九時頃から、午後五時頃まで。

1 【文章2】の——線部①「たわいもない」の意味として最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 取るに足らない    イ はつきりしない    ウ 信じられない    エ まつたくむだがない

2 【文章2】の——線部②「突起する」と意味が似ている言葉を、【文章1】の中から四字で抜き出して書きなさい。

黒木さんは【文章1】【文章2】を基に、次の意見文を書きました。

### 【意見文】

一句一章を、春の長さ一日、考えあかしても、彷彿として明らかでないことがしばしばあった。四人が、一日の間考えぬいて、やっと解いたのは「眉上八目ノ上ニ生シタル毛ナリ」という一句だけだった。

これは、菊池寛が著した『蘭字事始』の一節です。「眉とは目の上に生えている毛である」という言葉の意味を理解するのに、四人がかりで、一日間を要したと書かれています。このとき、杉田玄白、前野良沢らを取り組んでいたのは、オランダ語の解剖書を日本語に訳す作業です。辞書らしい辞書がない中、四年の歳月を費やし、『解体新書』が完成しました。情報機器が発達した現在、外国語を日本語に訳すことは、いとも簡単にできます。それを考えると、当時の翻訳作業は、手探りの状態だったといえます。

しかし、現代が江戸時代よりも便利になっているかと問われたら、私は首をひねります。世の中にならず巻くさまざまな情報の中には、信ぴょう性が高い情報があれば、それ以上に疑わしい情報があるからです。また、よく練られた文章よりも、むしる思いつきで書かれた文章の方が多いようにも感じます。結局、私たちが日々接している情報のうち、ほんとうに質の高いものはまれにしかないといえるでしょう。

④現代人は、玄白のころとは違った意味で手探りの状態にあるのかもしれない。



シート 30 正答例

- 1 ア
- 2 うま直し
- 3 引用
- 4 ほんとうに聲の聞こえ情報にはまれにしか出逢えなう (23 字)